

# 光明禅寺

第522号

令和八年三月

現在に活きる

仏の教え

自信がないから立派に見せようとか、  
自分を無理して変えようとか、  
そう思えば思うほど、あせて心は

苦しくなっていくんだ。自分を苦しめていた自分に気がつく。ただの平凡な身動き自由な人間がそこにいることに気が付くだろう。

キレイな色を作ろうと思つて、いろんな色を混ぜてくと、だんだん汚い色になつてくる。本当は原色のままが一番キレイなのに。

悩みの多くは、所有することから生まれる

電話 221 4127 (2回線)  
4331 090  
7981 9123  
FAX 241 3519

(県・市文化財指定安置所)  
〒八九四〇二 指宿市十町南迫田二七六八

## 三月の行事

一 暁天竺禅会 廿一日 曜(一日) 朝六時

廿三日 曜(十五日)

一 春のお彼岸法要(中日)

納骨堂 二十日 一時

本堂 二十日 二時

一 地藏尊・水子供養 中日 二十日 二時

十七日 彼岸入り・二十三日 彼岸明け

(決算の為に 護持会費(年会費)

七年度分 未納の方は よろしく

お願い 申し上げます。

・彼岸と此岸をつなぐもの。

和尚さん、お盆とお彼岸の違いは

何ですか？」ある日、とあるお檀家

さんからご質問をいただきました。

どちらもご先祖さまをご供養する

機会であり、お寺やお墓にお参り

をされるといふ点でも同じですが、そ

の違いがふと気になったのでしよう。

私は「お盆はご先祖さまを仏さまの

世界からこちらの世界にお迎えし

てご供養し、お彼岸は仏さまの

世界にいらっしゃるご先祖さまにこちら

の世界から思いを馳せ、ご供養する機

会なんです」とお答えしました。

お彼岸は、春・秋分の日を中日とした

一週間、ご先祖さまをご供養し、ま

た、善い功德を積む期間として、古

くから行われってきた行事です。

「彼岸」は「彼方の岸」の略で、仏さま

やご先祖さまがおわす「仏さまの世界

」お悟りの世界」を意味し、迷いの

多い、私たちが生きる世界を「此岸

」といいます。「こちらの世界」からで

も、仏さまの世界に思いが届くよう

に、一生懸命に命ご供養しましょうね」

と、実は皆さんがお寺やお墓にお参

りし、ご先祖さまのご供養をしてい

る時、知らず知らずのうちにこの六

波羅蜜（密の修行）をしているのです

ご先祖さまに飲食と真心を差し上げ

（布施）お参りの日は慎み深い生活

を心がけ（持戒）、家族や親族に対し

て寛容な心で接し（忍辱）、一生懸命

命にお仏壇やお墓を掃除し（精

進）、心穏やかにお経をお唱えし

（禪定）ご先祖さまが残してくれた

さった尊い生き方を思い出し、自ら  
がこれからなすべき正しき生き方を  
見極める(智慧) いかたですか？」

幾分安心した顔をさかましたが、さ

らに尋ねられます。「私たちが生きて

いる、こちら側の岸は迷いの世界なの

ですわ、その迷いの状態はずっと変

わらないのでしようか？」と、「お寺やお

墓参りなどをきっかけに、この六波羅

密を修行する人が増えれば増える

ほど、迷いの世界であったこちら岸が

仏さまの世界、つまり彼岸になってゆ

くのです。ご先祖さまへのご供養は、

彼岸と此岸をつなぐ大切な行いでも

あるのですよ」私のその答を聞いた

お檀家さんは、凛とした表情で

「わかりました」とおっしゃいました。

その決意に満ちた表情を拝見

した私は「ああ、またこちらの世界  
が彼岸に近づいた」と感じ、とても  
うれしくなりました。

・お彼岸の由来・

お彼岸は、春分および秋分の日を

中日として、前後三日ずつをあわせた

各七日間をいいます。季節の変わり

目にあたり、いのちの尊さや自然の恵

みに感謝しながらご先祖さまを供養

し、ご加護を願う行事として古く

から行われてきました。各家庭で

はだんごやぼたもち、おはぎなどを仏

壇に供え、そろってお墓参りに出か

ける光景が見られます。私たちに

とってたいへんなじみの深い、欠かすこ

とのできない年中行事と言えらるでし

よう。彼岸とは、古いインドの言葉

で、修行の完成を表す「パーラミター  
 (波羅蜜)」に由来します。仏教で  
 は、私たちが生きている迷いの世界を「此  
 岸(川のこちら側)の岸」と呼び、おぼ  
 りやとらわれのないさとりの世界を「彼  
 岸(川の向こうの岸)」と呼んで、安ら  
 ぎの彼岸へ渡ることを願ひ、仏道修  
 行が行われてきました。そしてこの時  
 期には特に、在家信者も戒律を  
 守り、仏法を聞き、生活を正すこ  
 う習慣がありました。

私たちは、日常の生活に追われ、  
 本当に大切なことを見失ってしまいが  
 ちです。お彼岸は、今日ある自分  
 を育んでくれたご先祖さまに思いを  
 寄せると共に、自分自身のいのちの在  
 り方を見つめ直す、大切な期間なの  
 です。

六波羅蜜 定宝

布施 …… 限りない慈しみと与える  
 喜びを知る

持戒 …… 正しい生活をして自身の完  
 成に努める

忍辱 …… 寛容な心を持ち、ものご  
 とにあたる

精進 …… 怠ることなく一生懸命  
 努力する

禅定 …… 心穏やかにして真理を  
 見極める

智慧 …… ものごとの真理を正しく  
 理解する

・愛は相手を選ばない。……(愛す  
 るもの)にすべては平等である。愛に  
 差別はない。  
 (ジャータカ)